

1. 背景とねらい

本県におけるストック栽培は、近年ハウスの効率的利用を図る上での重要な品目として着実に伸長している。しかし、現行のストック栽培では、は種期から定植期までが盛夏期となるため、苗の育成率や定植後の活着率が低下しやすく、細かな管理を必要としている。しかも、10a当りの定植本数が37,000本程度と多量となるため、この期間における労働時間は全体の47%を占め、問題となっている。

ストックの直播き栽培については過去に他県で研究された経過があるが、八重鑑別が困難であったり、発芽率が低い事もあって実用化に至っていなかった。しかし、近年、秋出し用極早生種の品種開発が進み、八重鑑別が容易で発芽率も向上している。

そこで、育苗労力の軽減を図るために直播き栽培技術について検討した。

2. 技術の内容

- 1) 直播き栽培を行った場合、労働時間は慣行の約70%に低下する。
- 2) 直播き栽培における種子の形態は、コーティング種子・裸種子、いずれを用いても発芽率、八重率、生育量等に差はない。
- 3) 播種粒数は、オールダブル系2粒播き、普通品種は4粒播きとする。
- 4) 極早生種の直播き栽培における播種期と開花期のおよその目安は以下の通りであり、同一播種期の場合、直播き栽培は、慣行栽培よりも開花期は早まり、品質的には、ほぼ同等である。

直播き栽培における播種期と開花期 (北上周辺)

播 種 期	開 花 期
7 月 下 旬	10月中旬～10月下旬
8 月 上 旬	10月下旬～11月上旬
8 月 中 旬	11月上旬～11月下旬

5) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意事項

- 1) 定植床（直播床）は土壌消毒を必ず行う。
- 2) 定植床は良く碎土し、発芽ムラの生じないように均平にする。
- 3) 播種粒数は、品種の八重率特性、栽培者の鑑別技術等を考慮する。
- 4) 播種後は、十分に灌水し、発芽前までは遮光する。
- 5) 直播き栽培では分枝や、花とびの発生率が慣行栽培よりやや高くなる傾向があるので、特に初期の高温に注意し、30℃以上にならないようにハウス床面のビニール除去や遮光、通路散水などを行う。

4. 当該事項にかかる研究課題名 ストックの直播きによる省力栽培法（1～2）。

5. 参考文献

昭和63年度花き試験成績概要集 農水省野菜試験編 1989.3（三重県No.4）

6. 試験成績の概要

直播き栽培における種子形態、播種粒数と発芽率、八重率¹⁾

供試 品 種	種 子 形 態	播 種 粒 数 (植穴当たり)	植穴数	総播種 粒 数	発芽率 ²⁾ (%)		育成率 ³⁾ (%)	八重率 ⁴⁾ (%)
					8月7日	8月14日		
高 波	コー ティ ン グ 種 子	2	112	224	62	75	90	63
		3	112	336	56	74	94	85
		4	112	448	53	74	95	91
		5	96	480	54	76	95	92
	裸 種 子	3	112	336	65	73	96	83

1) コーティング5粒区は、昭和63年8月3日に3粒播き、その他は全て平成元年8月3日に3粒播いたものである。

2) 発芽率は、総播種粒数に対する割合である。

3) 育成率は、植え穴数に対する割合である。

4) 八重率は、育成個体数に対する割合である。